

ていったら、ちょっと大変なことになりはしないかというふうに私は思います。それはこれからまた議論をさせていただきたいと思います。

最後にですが、市長にお伺いしますけれども、職業訓練協会、職業訓練校の課題です。市の総合計画見ているんですけども、その中には具体的にどこでというのはなかなか示されていません、いろんな例えば工業を発展をさせる、技能を向上させる、長井市の実施計画の中には勤労センターにこういう補助をすとかこういうふうにするというのはあるんですけども、どこにも出てこないのです、職業訓練校の取り扱いというのは。それは、総合計画などの見直しの際にぜひ私は入れてほしいというふうに申し上げましたが、そのことについてだけ考え方をお聞かせいただきたいと思います。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、総合計画の中にはいわゆるそういった具体的なことが残念ながら欠落しておりますし、そこまでは詰め切れないんだらうと、やはり実施計画の中でそれらについてはきちんと明示しなきゃいけないと思いますが、職業訓練校については、やはり市の外郭団体という言い方はちょっと違うかもしれませんが、そういった施設ではございませんので、やはりきちっと協議しながら合意した部分を実施計画に上げると、そういったことは必要なのだと思いますので、今後それらについてはぜひ重要な機能を持っている学校でありますので、配慮していかなくちゃいけないというふうに思います。

あとなお、別な件で恐縮でございますが、ちょっと訂正をさせていただきたいんですが、先ほど国、県の直轄事業負担金の動向と市の考え方ということで、県事業に係る市町村負担金について、私の方で誤って地方自治法第27条というふうに申し上げましたが、これは正確には地方財政法第27条の誤りでしたので、ちょっと自

分ではそのつもりでおったんですが、申しわけございません、おわびして訂正させていただきます。

○町田義昭議長 10番、高橋孝夫議員。

○10番 高橋孝夫議員 ありがとうございます。以上で質問を終わります。

○町田義昭議長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時59分 休憩

午後1時00分 再開

○町田義昭議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 谷口栄子議員の質問

○町田義昭議長 順位8番、議席番号5番、谷口栄子議員。

(5番谷口栄子議員登壇)

○5番 谷口栄子議員 12月定例会一般質問。通告しております3点について質問させていただきます。答弁は、市長、教育長、企画調整課長、商工観光課長、文化生涯学習課長にお願いいたします。

12月定例会最後の質問者です。しばらくのご清聴をよろしくお願いいたします。

初めに、本市でも新型インフルエンザワクチン予防接種に1回目2,000円、2回目1,000円の助成を3,675人分で882万円補正予算に追加され、今議会に提案されております。11月30日付新聞に、全国的に新型インフルエンザに感染した人の割合が5歳から14歳では約50%に上がる計算になることが、国立感染症研究所が算定した推計患者数などからわかってきました。厚生労働

+

省は、学校で集団生活を送る年代で感染機会が多いためではないかと発表しております。全国5,000カ所の医療機関を受診したインフルエンザ患者数から、全患者数を推計しており、11月20日付、累計患者数を推計で1,075万人、大半が新型インフルエンザと見られ、内訳でゼロ歳から4歳が95万人、5歳から9歳が285万人、10歳から14歳が309万人、15歳から19歳が168万人、全体の約80%を20歳未満が占め、5歳から14歳が特に多いと言われております。

それでは質問に入ります。

1点目、あやめ公園高台整備についてであります。

高台は、ふれあい広場として、横町を始め周辺地域の子供たちの遊び場として遊具が設置され、活用されてきました。珍しい遊具が設置されたことで児童センターや近くの保育園の子供たちにも利用されてきました。

近年、遊具での事故が発生し、ねじの緩みの点検などに力を入れて見回ってはこられたようですが、使用禁止になりました。「子供を遊ばせようと高台に行っても、まだ使用禁止の黄色いテープがめぐらされている」と言って、「いつ直るのか」「危険だったら新しいものを早く設置してほしい」、若いお母さんからの声も聞かれておりました。また、高台はあやめ公園と一体との思いも市民の皆さんに強くあり、「高台から見渡すあやめ公園のすばらしさを取り戻してほしい」との声も多く聞かれます。高台は今年度、市が買い戻されましたし、企業局から新しい遊具を設置していただけると伺っております。どのように整備されるのか、整備に当たってはぜひあやめ公園を高台から展望できる場所を確保してほしいとの市民の要望を聞いていただきたいと思っております。今回示された計画図に盛り込まれているのか、市長に伺います。

また、平面計画図では、1つ、高台展望エリア整備工事、また2つ、高台西側水路エリア整

備工事、3つ、高台展望エリア子育て支援遊具整備工事、4つ、高台展望エリア駐車スペース整備工事、5つ、高台中段休息エリア整備工事、6番、下段水路親水エリア修景整備工事、7つに、下段水路親水エリア水車整備工事、さらに8つ、高台親水エリア連結工（旧中央整備工）の工事計画図となっております。

8項目にもわたるこのような高台の整備工事が実現されれば、あやめ公園との一体感が新しくなり、子供たちにも喜ばれ、高台からあやめ公園へ散策しながらおられてくださる観光客もおられることでしょうか。また、高台でバスをおり、バスは北口駐車場に向かってもらい、お客さんを待っていただくなど駐車スペース整備もこの工事において活用できるものであってほしいと思います。

明年は、あやめ公園100周年です。高台整備はあやめ公園100周年の記念事業ともなる整備工事と思っております。この点について市長に見解をお伺いいたします。

完成の予定について。2つ、子育て支援の遊具はどのようなものが整備されるのかについて。3つ、駐車スペースの整備は普通車で何台とめられる広さなのか。あやめ公園開園時などはバスも駐車できるのかなどについて、駐車スペースの整備にどのように行われるのか、この3点については商工観光課長に伺います。

次に、2点目。3万人のまちづくりに向けてであります。市長は市報の市長とティーブレイク欄に、「3万人都市復活大作戦」と題して、7月市報から数回市長の未来予想図を描かれています。7月15日号では、全市職員を対象とした意見交換会を持たれてきたこと、平成22年度採用予定の市職員採用試験の小論文も同じテーマで、あっと驚く提案、ユニークなアイデアが出されたとありました。長井市の人口の減少に、1つ、若い人たちを中心とした仕事や進学などでの人口流出と、2つ、子供の1年間に生まれ

る出生者数よりも死亡者数が上回る人口の自然減が多いことを挙げております。

人口3万3,000人だった20年前は、人口の自然減が少なかったこと、その後、長井市の経済低迷、県内他市と比べて著しいマイナス成長により、職を求めて若い層や働き盛りの世代が転職されたこと、全国的な大都市圏への人口集中という社会的現象がそれに拍車をかけたことなどで、子供を産む世代が減少し、最近では年間の出生者数よりも亡くなる方が倍近くなっていると分析されています。

子育ての負担を考えると、子供を持つ数も少なくなってきました。私は3人の子供を産みましたが、家族にも育てていただくことができませんでした。子供を働きながら夫婦だけで育てていくことはとても大変だと思います。経済的にも子育てには大きな負担がかかります。昨日の佐々木議員の質問で、20代から30代の若い世代の意見が多く取り入れられたと伺いましたが、安心して子育てできる環境の整備を強く要望いたします。

昭和29年、長井市誕生のとき3万7,000人だった人口、人口の推移を見ると平成17年3月31日現在で人口3万1,110人、世帯数は9,673世帯、ことし21年4月30日現在で人口は2万9,872人、世帯は9,683世帯、最近10月31日現在では、人口2万9,788人、この内訳の男性は1万4,428人、女性は1万5,360人、世帯では9,701世帯となっています。人口は減っていますが世帯がふえてきている、市長はこれ以上人口を減らさないためにと、子育て支援、医療、介護、高齢者福祉の向上、充実に、また芸術文化、スポーツの充実に力を入れてこられました。厳しい状況です。

市長は就任と同時に、経済再生戦略会議を設置され、先月、11月17日の全員協議会に資料としてお示しになりました。市職員との協議や22年度市職員に採用される方の論文等に提案さ

れた長井市の新しい未来図、「21年度経済再生戦略会議の議論とこれから」と題し、詳しく書き込まれた資料となっています。この資料の中のどの項目から実現化を図り、人口をふやしていくのでしょうか。また、明年からとなりますが、明年11月までにはどこまで実現されるのでしょうか。市長に伺います。

また、人口をふやすための独自の支援策について、市長は若者の安定的な雇用の確保、地域経済の活性化、医療体制の充実と医療負担の支援、住宅施策など、定住対策など検討すべき課題を挙げております。「すべてが魅力あるまちづくりのために重要な課題で、複合的に支援することで大きな成果が期待できる」と、6月定例会のときに蒲生光男議員の質問に答弁されておられます。

また、経済再生戦略会議の議論とこれからの各事業で優先度について、1つ、空き店舗活用班、2つ、市民直売所班、3つ、農産物などブランド化戦略会議、4つ、まちなか歩きデザイン班、5つ、連携型工業開発班の分担になっております。責任と分担についてどのように取り組まれていくのか、企画調整課長に伺います。

また、あわせて、産業振興対策、雇用対策、高齢者対策、生活環境整備対策、住宅対策、少子化対策、子育て支援対策、交流田舎暮らし推進対策も挙げておられますので、どの項目からどのような対策をとられるのか、企画調整課長にお伺いするものです。

3点目、子供たちの読書運動についてであります。長井市の21年度教育の基本方針に今年度から移行期に入る新学習指導要領にも引き継がれた、生きる力の育成、5教振で目指す命輝く人間の育成、長井市の基本テーマである「長井の心」の教育を明確にし、やまがた教育コミュニケーション改革にのっとり、創意ある教育活動、小中連携した取り組みの充実が挙げられており、こども版「10の子ども像」には10の項目

+

が挙げられております。その中に本の大好きな子供がおります。

長井小学校の教育計画には、慈愛の心にあふれ、いのち輝く子どもの育成を求める子ども5項目の中に、本が大好きである、具体策に、朝の読書、読み聞かせなど、言葉の力と「長井の心」を育てる読書活動の充実を図るとあります。そして読書が大好きな子供を目指し、国語の教科書関連読書、調べ読書、読み聞かせ、読書環境の整備などの取り組みを家庭と一体となって進めるとあります。

また、毎月23日を「長小読書の日」として、家庭と一体となって読書に取り組むことになっています。また、西根小学校でも、全校読書や親子読書に取り組んでいます。南中学校では、読書指導、応募活動を充実し、表現力を育てることに力を入れ、活用力につなぐ全校読書として毎週月・水・金の朝の読書時間を設定し、本に親しみ、落ちついた一日の生活をスタートさせる。また、月に1回、全校一斉に考えを深める読書資料を読ませ、活用力につなぐ努力をなされています。

教育長には、このような取り組みの状況、成果をお聞かせください。

また次に、各小学校での移動図書館いなほ号が活用されております。特に伊佐沢小学校の教育方針の中で、読書を通して豊かな心を育む指導を挙げておられ、良書に触れる機会をふやし、読書意欲を高める環境を整備するとなっており、朝の読書、いなほ号の活用が挙げられています。

文化生涯学習課長には、各小学校でのいなほ号の活用状況についてお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 谷口栄子議員のご質問にお答えいたします。

議員からは、私には2点ほど質問をいただき

ました。

まず最初の、あやめ公園高台整備についてでございますけども、(1)の完成予定については後ほど商工観光課長の方から答弁いたさせますが、私の方からは子育て支援の道具はどのようなものを整備するのかなどを中心にお答えを申し上げます。

高台整備の内容につきまして、私からただいま申し上げましたように全体的な考え方を申し上げます。

一昨年からの県企業局との話し合いの中で、昨年度におきまして高台の遊具整備に対するものとして、支援をいただく方向で了解をいただきました。そのため今年度予算に遊具整備事業費として上程させていただき、議会の議決をいただいたところでございます。

しかし、その後、今年度に入ってからでございますけども、企業局から、よりあやめ公園の再スタートにふさわしい整備に係る支援を行いたい旨の話がございました。今までは遊具を中心に都市公園としての機能を充実させ、またあやめ公園とのできるだけ一体化をできるような、そういった事業につなげたいということだったんですが、そんなことから今年度に入って4回程度の計画変更の見直しを含めて種々協議を重ねてきたところでございます。

そしてこのたび、先週でございますけども、ようやく基本的な合意に達したところでございます。この内容につきましては、来週14日に産業・建設常任委員会協議会を開催いただきまして詳細を説明させていただきたいというふうに考えておりますけども、整備の基本といたしましては、議員からも、または市民の方からの要望も強かった高台からの眺望、また旧中央口の復活などを目指し、高台と園内の連携を図り、さらに水辺と花、明かりを生かしてあやめ公園の魅力アップを目指すものでございます。遊具につきましては、企業局サイドの支援になじま

ないということで、市の事業として実施することとなりましたので、規模的には縮小することになりますが、複合遊具等の整備を行う予定でございます。

遊具の整備がおくれたことに対して申しわけなく思っておりますが、事情をご賢察いただき、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。ぜひ100周年という節目にふさわしい再整備のスタートとなるものというふうに期待しております。

次に、2の3万人のまちづくりに向けて、経済再生戦略会議の議論とこれからの優先度をどのように進めるのかということについて、お答え申し上げます。

まず、人口増加策については、主に産業振興、雇用対策、それから高齢者対策並びに生活環境整備、住宅対策、少子化対策、子育て支援、また交流、あわせて田舎暮らしの推進対策等々があるというふうに大体まとめているところでございます。

現在進行している各課の施策も、これらの分野を担っている事業でございまして、現在の施策のそれぞれが有機的に補完し合わなければ3万人のまちづくりは達成できないと考えております。例えば、農林サイドでしたら農林サイドだけで完結する対策というのは、やはり広がり少ない単独の事業になってしまいますので、農林と商工あるいは企画とか、そういった庁内での各課の連携をとりながら進める事業を優先的に行っていきたいというふうに思っております。

施策の優先度については、以前からつくっております市の第4次総合計画のまちづくり目標を達成するために、これをまず基本として行かざるを得ないと。それから、長井市自立計画、行財政改革推進計画、財政の中期展望の規律を守りながら議論され、決定していくというものでございます。

昨日、各議員からのご質問にお答え申し上げましたように、3万人のまちづくりプロジェクトチームでは、各課から提出されている事務事業評価シートに基づき、新規に取り組むべき事業や、一層の強化を図るべき事業について検討が行われております。その結果、特に産業振興、2点目が雇用対策、3点目が子育て支援の3つが喫緊に対処すべき優先事項であるとし、特に新年度予算に反映できる施策として子育て支援を中心に提言の報告をいただいたところです。

なお、主な内容は、昨日答弁申し上げましたように、小学生までのこれは完全医療費無料化というふうに言っていると思いますが、それと幼稚園、保育園、児童センターにおける負担の均衡化、ゼロ歳児待機児童施設の整備などがございます。

また、谷口議員からご質問ございました全職員との意見交換会あるいは30代の職員グループから、また6月に実施いたしました職員採用試験での小論文等々の中で出されたものとし、Uターン型奨学金制度を設けたらいいんじゃないか、あるいはカジノ特区とかですね、女性刑務所を誘致したいんじゃないかと、そういった意見もありましたし、また婚活事業といたしまして、単なるお見合いパーティーのようなものではなく、複数日にわたる旅行、小旅行とか、あるいはキャンプ等を市が主催して行い、多くのカップル誕生を目指すべきだとか、さまざまなユニークな意見がありました。

3万人のまちづくりについては、画期的特効薬的なものはないというふうに思います。しかし、3万人復活の声を上げて以来、市民の皆様からのいろんな反響もございまして、職員の間にも驚かされたところでございます。こうした意見を大いに参考といたしまして、現在の施策の組み合わせを調整しながら、より多い社会増、自然増を達成し、社会減、自然減を緩やかにし

+

ていくと。そして施策の効果の有効度を最優先としながら取り組んでいかなければならないというふうに考えております。

なお、現下の厳しい景気雇用状況でございますし、また来年度は国勢調査の年でもございますので、その国勢調査等々あるいは経済雇用対策に少しでも資することができるように、ある程度時間をかけてやるべきものではございますが、しかし緊急に来年からできるところからスタートするということが必要だと思ひますし、同時に新たな長井ならではのまちづくりの理念とか価値観というものを構築していかなければならないと、そのように思っているところです。

なお、経済再生戦略会議の内容については、企画調整課長の方から答弁させていただきます。

私の方からは、以上でございます。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 谷口議員のご質問、子供たちの読書運動についての取り組み状況と成果ということについてお答えをします。

長井市では、「長井の心」の育成を教育の柱として取り組んでいるところです。長井の心、「10の子ども像」は、学校、家庭で目指す具体的な子ども像を明示したのですが、「長井の心」の育成だけでなく、第5次山形県教育振興計画で進めている命の教育とも関連させた具体像であり、単なる子ども像だけでなく、10の大人像でもあるというふうに思っています。

その中にある本の大好きな子どもは、読書を通して豊かな心を育成するとともに、今課題とされている表現力、創造力を養うものでありますし、読む力、理解する力がすべての教科学習の基本であるというふうにとらえています。

先ほど谷口議員からお話があったような取り組みのほかに、母親委員会による読み聞かせや家庭読書の日を設定して、親子が一体となって取り組んでいる学校もあります。そういう各学校の取り組みの成果は、移動図書館が着くと、

袋を下げて喜々として小走りに駆け寄ってくる子供たちの姿からも、読書の好きな子がふえているのではないかと感じています。落ちついた雰囲気の中で学校が安定して成果を上げているのも、「10の子ども像」に沿って頑張ってもらっているおかげであるというふうに思います。

また、いろんな応募活動でも成果を上げているところです。日ごろ学校を訪問している指導主事の方から、成果と思われる点ということで2点話を聞いています。1つは、標準学力テストの長井市内の小中学校の国語の偏差値が安定して高く推移している。国語においてはぐくんだ読解力等が、他の教科の正答率のアップにつながっている。

2つ目は、朝読書、全校読書等の取り組みが落ちついた雰囲気づくり、学級づくりにつながっている印象を受ける。また、じっくりと文章を読む、しっかりと話を聞くことが習慣化されることにより、創造力や表現力を涵養することにつながり、さらに集中して学習に向かう構えづくりにもつながっていると感じているという評価でした。

これからも読書活動は長井市の教育の柱として取り組んでいきたいというふうに考えているところです。以上です。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 谷口議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、1番目の完成の予定についてでございますが、企業局からの支援が市の事業に対する負担金というふうな形になってございます。このため今年度中の事業実施が求められておりますので、これに向けて進めていく予定でございます。

それから、2番目の子育て支援遊具はどのようなものかという質問でございますが、遊具につきましては市の財源により整備することとい

うふうなことになりました。今回の議会で補正の提案をさせていただいております500万円と合わせまして、合計約1,280万円で松ヶ池公園とあやめ公園高台の遊具を整備させていただきたいというふうに考えてございます。あやめ公園の高台におきましては、このおおむね半分の予算額を想定しております、内容といたしましては複合遊具、それからブランコ、鉄棒の新設を予定しているところでございます。

3番目の駐車スペースの整備につきましてですが、駐車スペースにつきましては、議員からのお話にもありましたんですが、高台を利用する家族連れの駐車場、それから祭り期間にはあやめ公園と高台を利用する大型バス等の利用というふうなことでも整備したいというふうな考え方で、11月の協議会におきまして示させていただきました内容で、高台の南東部分に約450平米の駐車スペースを計画し希望してございましたんですが、150平方メートル程度のご了解を得ることができた状況でございます。この面積ですと、進入路をとった状態で乗用車5台は駐車できる状況と考えてございます。なお、大型バスだけであれば2台程度は可能な広さというふうに考えてございます。

あやめ祭り期間中につきましては、議員のご指摘のように公園の北側駐車場というふうなものと同様に、大型バスの一時的な乗降場というふうなこと、さらにそこから總宮神社あるいは丸大扇屋等のまちなか歩き観光への連携拠点、連携する場所としてこの場所を考えていきたいというふうなことで考えてございまして、そうした目的を達成できるような仕組みを考えていきたいというふうに考えてございます。以上です。

○町田義昭議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 谷口議員のご質問にお答え申し上げます。

経済再生戦略会議は、現在5つの分野で検討

されております。この中では、市民直売所が先行して取り組まれている状況です。この市民直売所は、ほかの4つの分野の検討している部分に強く関係し、また連動する場面ですので、また現在、関係者との協議も進んでいるというようことから、先行して取り組んでいるという状況です。

市民直売所の議論については、当初、白つつじ公園の駐車場にテントを随時設置してというふうな考えもありましたが、農業関係の委員の方あるいは既に直売所を持っていらっしゃる委員の方などの意見を統合しまして、常設の店舗を開設すべきというふうな結論になって、準備を進めているところでございます。

なお、関係団体との調整等、開設、当面の運営管理については地場産業振興センターがこれを担うというふうな計画をしております。ほかの班の事業につきましては、例えば商品を開発して陳列したりというふうな検討の進んでいる空き店舗の有効活用班、また今まで経験があつてもう一工夫と思われるまちなか歩きに関するデザインの班、連携型の工業開発班では、今後もワークショップを続けながら新製品の開発を目指したいと、そういうふうな状況にあります。

今までは農林課、商工観光課、建設課、企画調整課の各課長、補佐が、それぞれの班の班長、副班長というような役割を務めてきました。12月以降については、市の方が事務局の機能は担いながら、実際今後それぞれの班でだれが行動してだれが運営、経営するかという点をさらに検討するというふうな予定です。今年度末まで、まず山形大学の先生方に継続してご指導いただきながら結論を導き出したいというふうに考えております。

人口増加策、3万人まちづくりについては、市長がご答弁申し上げたとおりでございます。それぞれの対策8つありますが、独立しているようですがすべて連動しているというふうに考

+

えています。ただ、その中でもやはり産業の振興、雇用対策が市民福祉の源というふうな部分でありまして、これを優先して検討しなければならないというふうに考えます。

加えて、こういう3万人のまちづくりについては市民の理解も必要ですし、また一緒に考え、情報を提供して協力いただくというふうなこちらからの働きかけも今後進めていかなければならないというふうに考えております。以上でございます。

○町田義昭議長 那須宗一文化生涯学習課長。

○那須宗一文化生涯学習課長 谷口議員のいなほ号の活用についての質問にお答えを申し上げます。

まず、平成21年度のいなほ号の運行状況をご説明申し上げます。運行期間は、4月から1月までの火曜日から金曜日としております。訪問施設は、市内の各小学校でございまして、長井小学校だけは2、3年生のみを対象としているところです。幼児施設では、清水保育園、致芳、西根、平野、伊佐沢、豊田の各児童センター、白山保育園、めぐみ幼稚園、小桜幼稚園を訪問しております。

いなほ号の活用についてでございますが、各小学校では、いなほ号が来る日を予定表に記入したり、いなほ号の日を玄関に掲示するなど、児童が利用しやすくなる取り組みが行われているとお聞きしております。

いなほ号の利用状況を申し上げます。平成17年度は4,410人が利用して、1万210冊借りております。18年度が5,179人の利用で1万1,800冊、平成19年度が5,820人で1万3,108冊、平成20年度が7,266人の利用で1万7,514冊、平成20年度にBM車、移動図書館車を更新しておりますので、この間、期間が長くなっているというふうな影響もあります。本年度ですが、11月までで7,522人と、前年度を上回っておりますし、貸出冊数についても1万8,163冊と前年を上回っ

ているところでございます。

小学校の利用状況だけを見ますと、4月から11月までの8カ月間で貸し出した冊数は1万2,186冊で1校当たり月253冊という冊数になります。これを見出しにしてみると、1人当たり11.4冊というふうな数字でございます。各小学校では少し差はあるわけですが、貸出数、利用人数ともに前年を伸びている状況でございます。特に、伊佐沢小学校におきましては、児童1人当たり20.7冊借りているということですので、8で割り返しますと大体月1人2.5冊借りているというようなところで、非常に多くの利用があるというようなことでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 大変詳しい答弁ありがとうございます。

市長にお伺いいたしますけれども、高台の平面計画図を見せていただきますと、高台展望エリア整備工事っていう緑に色分けになっている部分があるんですけども、現在は階段から下に、公園の南口の方に入っていくところに、あやめ公園を有料化したときに公園が見えたら困るというので小高い丘をつくってというか、木をたくさん植えているんです。そこが物すごくぼうぼうになって伸びているんですけども、ここが全部平らになっていくというか、これからやっぱり子供たちも新しい遊具になれば多くの方も来るし、不審者対策などで、現在もヘビだとか捨て猫なんか、犬がいたりとかね、そういうものでちょっと大変になっているところですが、ここは全部そのような整備になるのでしょうか、お聞きします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

議員がただいまおっしゃったように、死角になっている部分が今まであったんですね。やはりあやめ公園の中が見渡せないようにというこ



とで、意識して遮断していた感じがあったのではないかなというふうに思います。また、今まで金田家さんのわきを通して入れたわけですが、これについては常時開設するというところではないんですが、今検討としては、ここから臨時的に入れるような、そんなことも考えながら一体的にあやめ公園と高台を考えていくと。なおかつ高台の方からあやめ公園の方がある程度見渡せるようにする必要はあるんじゃないかということで考えているところでございます。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

また同じく市長にお伺いいたしますけれども、親水エリアを設けて、水車の整備なども工事するという予定で、大変子供たちには夏なんか、ここまでおられて遊ぶんだったらいい環境になるんでないかって思うんですけども、現在の場合ですとすぐちょっと高いんで、ここはどのように整備されるのか、そこまではおりにいけないのか、ちょっとお伺いしておきたいと思います。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 この水車の部分については、高台と一体というふうに考えておりますので、高台の方からもおりにけるように考えております。また、ここの河川が結構水量がありますので、やはり今は結構雑草等々で川がよく見えないうということもありますけども、ここを整備しながら、花と水をやはり強調したいと。

あと、ここのエリアだけじゃなく、竹林がございまして、このあやめ公園の中。そういったところに、前々からいろいろ市民からも提案いただいていた、蛍なんかもぜひ生息できるような、時間はかかるかと思いますが、そのようなことであやめ公園もいわゆるシーズン以外でも市民の方が親しめるような、そういった機能を持たすべきじゃないかということで考えているところでございます。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 やはり高台はあやめ公園の一部という感じで、多くの市民の皆さんは高台から見るあやめを楽しみにしているわけです。来年は100周年ということで、まだまだあやめ公園の中も、ただいま市長がおっしゃられましたように整備をすればまだまだよくなっていくという部分もたくさんありますので、ぜひこれからは一体化を見ながら、また予算の許す限り、やはり市民の皆さんから喜ばれる公園をつくらなければ、公園にならなければ、多くの観光客も来てくれないのではないかとこのように思いますので、その点よろしくお伺いしたいと思います。これは要望です。

あと、企画調整課長にお伺いいたします。大変すばらしい資料をつくっていただいたわけですが、皆さんの議論の中で、やはりこれを連携しながら、先ほど市長や皆さんのご答弁の中に、連携を図りながら実行していきたい、実現させていきたい、これには予算も伴うわけですので、やはりその辺の予算はまちづくり交付金とか、そういうものも使えるのかどうか。例えば、連携型工業開発班とかまちなか歩きデザイン班、このような場合の予算はどのように、どこから財源を考えられるのでしょうか。

○町田義昭議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 お答え申し上げます。

今年度中の議論については、12月の補正の方で提案をさせていただいています。なお、来年度からの必要な予算については、それぞれ担当する課の方で予算化していくこととなりますが、中心市街地関係ですとさまざまな国の補助制度等もございまして、そういうものも有効に活用しながら財源を確保すると。その後、この各班の中で話し合われた内容を具現化していくというようなことになると思います。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

先ほど商工観光課長の方から遊具の説明がありました。やはり新しいうちは事故というかねじが緩んでたとかなんていうのはないでしょうけれども、やはり油断をしないで見回りというのか、点検を考えているのかどうか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 今、議員おっしゃられたとおり、管理につきましても手落ちのないようにしていく所存でございます。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

教育長にお伺いいたします。子供たちが大変読書の好きな子になっている。平成17年からの長井市の教育方針をずっと見ていきますと、読書に対するやっぱり本の好きな子、本を読むということずっと教育方針に掲げられてまいりました。やはり5年間続けた継続の力というものすごいのだなということを感じております。

先ほどの説明をいただいた中に、国語の偏差値が高くなってきていると、そういう話もありましたし、長井市の教育の今後も柱にしていこうということですが、今回長井市の市民表彰式に角野栄子先生、絵本の先生ですけれども、感謝状を受けられながら、図書館と教育委員会も一緒に読書感想文を募集なされましたよね。これに対してどのようなご感想を教育長はお持ちだったのかをお聞かせください。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 今回の角野栄子読書感想文コンクールというのは、一応図書館主催ということになってはいますが、前年度の指定管理者の前から、図書館長がおぜん立てをして今回の読書感想文コンクールを開催しているということですが、角野栄子先生にはたくさん本をいただいていますので、それを子供たちが読んでどんな感想を持つのか、その辺についての感想文コンクールを開催したいというようなこ

とで開催したわけですが、大変角野先生にも喜ばれて、表彰状の中にも「長井を愛する作家 角野栄子」というのがちょっと新聞でも出ていましたけれども、非常にいい企画だったなというふうに思っていますし、来年度についてはどうするかというのは図書館の方の考えもあるでしょうけれども、私はできたら継続してもらいたいなというふうに思っているところです。以上です。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

ただいまの教育長のご答弁のほかに、市長にもちょっとお伺いしたいと思います。やはり長井市にとっては大切なゆかりのある角野栄子先生でいらっしゃると思いますので、今後とも市としての交流というのか、そのような子供たちのための交流で、図書館でなくやはり市としての取り組みなんかはいかが考えているのか、お伺いいたします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 谷口議員がおっしゃるように、市としてきちっとこれからも角野先生には誠意を尽くしていろいろご指導いただきたいと思っています。最初のきっかけは、もちろん戦時中に疎開なされてきたという縁で、行政じゃなくて市民の皆様との交流があったわけですが、そういった縁で何回か小学校のPTAとか、そういったところでご講演いただいていたようでございます。

きっかけは、平成19年度から始めたブックスタートに角野先生の絵本をとということで、オリジナルを書いていただくようお願いしていたのですが、なかなか時間がとれないということで、本をずっと寄贈いただいております。そんなことから、例えば今回1階の入り口ですね、市役所の入り口のところを少し整備させていただきましたけども、あそこに角野栄子先生の紹介するようなコーナーとか、あとは長井の心の

コーナーとか、そういったものを来年度、新年度あたりから少しコーナーを設けてPRして、市民にもお知らせしたいなというふうに思っております。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

最後になりますけれども、先ほどいなほ号が大変皆さん反響あって、子供たちが駆け寄って本を借りているって、本当に私もそういう様子を長井小学校で見ました。本当に喜んで本をみんな借りているんだなということを感じたんですけれども、その分、各小学校の中の図書室の利用度というか、利用はどうなっているんでしょうか。教育長、もしわかる範囲でよろしいんですけれども。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 各小中学校の中の様子というのは、私も詳しくわかりませんが、中学校の場合ですとほとんど休み時間とか放課後借りるという機会は時間的にはありません。ただ、昼休み時間ですと図書委員が行って本を借りる時間はあると思いますが、あとは普通の教科学習の中で資料として使うというような使い方、またあと本の貸し出しはあると思いますが、小学校の場合はいろんな授業時間の中で、または放課後とか昼の休み時間の中で貸し出しというのは行われているというふうに思っていますが、十分な図書の量があるわけではありません。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 やはり教育長が答弁されましたように、今回の政権交代になりまして、事業仕分けの弊害がやはり読書関連予算にも影響されているということになっております。どうか予算を要求される際には、子供たちがこんなに真剣に本を読んでいるというので、今の大事な時期に素晴らしい本を読んでいただいて、自分の人生を生き切っていく、そういう子供に育てていただきたいと思っております。よろしくお願

いいたします。

以上で終わります。

○町田義昭議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

## 散 会

○町田義昭議長 本日は、これをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 1時59分 散会

+